

御堂筋のミナミの極にあるターミナルビル。増床とリニューアルで活用

南海ビル（高島屋大阪店ほか）



所在地：中央区難波5-1-60
建設年：1932年
構造・規模：SRC造7階、地下2階
設計：久野節建築事務所

日本を代表する大通り・御堂筋を南端で受け止めているにふさわしい壮観だ。長い壁面を16本のコリント式壁柱とアーチで整えたデザインに、戦前期に多くの大規模建築を手がけ、中でも鉄道駅や百貨店を得意とした建築家・久野節の手腕が光る。南海鉄道（現南海電気鉄道）が建設したターミナルビルに高島屋が入居したもので、昭和初期に拡張された御堂筋が大阪のメインストリートとしての地位を築いたことを物語っている。近年、当初の外観を尊重した大改修が行われた。鉄道と百貨店が人々の生活を変えていった昭和時代の象徴は、今も過去の建物を大事にしながら結節点としての機能を果たしている。（倉方俊輔）

元松坂屋大阪店の建物。NHK朝ドラでは主人公が通う心齋橋のデパートに

高島屋東別館



旧称：松坂屋大阪店
所在地：浪速区日本橋3-5-25
建設年：1928年～1937年
構造・規模：SRC造7階、地下2階
設計：鈴木建築事務所（鈴木禎次）

堺筋に面して日本橋に建つ高島屋の東別館は、そもそもは昭和のはじめに松坂屋として建てられた。大阪は1937年に御堂筋が完成するまで、堺筋が随一の大通りで、百貨店がこぞって出店したきらびやかなショッピングストリートであった。設計をしたのは名古屋に事務所を構えて松坂屋の設計を数多くこなした鈴木禎次（ていじ）。外観はクラシックな3層構成で、何といても堺筋に沿って続く67mものアーケード、11連のアーチが圧巻。内部もエレベーターとエレベーター廻りに濃密に装飾が施され、全体にアール・デコ調のデザインでまとめられている。かつては屋上に「松坂遊園」があり、夏はプール、冬はアイススケートで賑わった。

（高岡伸一）

当時としては画期的な焼肉レストランの本店ビル。
万博開催時は焼肉弁当が評判

食道園宗右衛門町本店ビル



現在の焼肉ブームの礎を築いた食道園の本店ビル。食道園は戦後まもなくの1946年、千日前通に面した木造の小さな建屋で創業したが、1970年の大阪万博を見越した千日前通の道路拡幅工事に伴って立ち退きを余儀なくされ、1968年に現在の宗右衛門町に本店ビルを建てた。設計したのは生（いく）美術建築デザイン研究所の生山高資。生山は北新地に事務所を構え、バーやスナック、ダンスホールや飲食店など商業建築のインテリアを得意とした建築家で、大阪キタの有名ダンスホール「ワールド」を設計した。1階のインテリアには、今もオリジナルのデザインがよく残っている。（高岡伸一）

所在地：中央区宗右衛門町 5-13
建設年：1968年
構造・規模：RC造6階、地下1階
設計：生美術建築デザイン研究所（生山高資）

ミナミ千日前に気品たかく佇む‘べっぴん’な店構え

純喫茶アメリカン



シアトル系カフェ全盛の現在、昭和時代の古き良き喫茶店が街から姿を消しつつある。喫茶店は、高度経済成長期の都市文化を語る上で欠かせない存在だ。昭和の雑踏が今も息づく千日前商店街に建つ純喫茶アメリカンは、戦後すぐの1946年に開店、木造だった店舗を1963年にビルへと建て替えた。オーナーは開店以来、売り上げの大部分を店の整備につぎ込んできたといい、フェスティバルホールの外壁を思わせる壁面の大きな彫刻レリーフや、優雅な曲線を描いて上る2階への階段など、どこを見ても昭和のモダンなデザインで、見る者を全く飽きさせない。（高岡伸一）



所在地：中央区道頓堀 1-7-4
建設年：1963年
構造・規模：RC造5階（一部6階）
設計：富士工務店